

13 回 日本赤十字社診療放射線技師会 中国四国ブロック研修会 開催報告

< 1 日目 >

日時：令和 7 年 2 月 15 日（土）

担当：高松赤十字病院

場所：本館北タワー12 階 講堂

参加費：無料

開催形式：集合形式（会員参加数 58 名）※荒井会長を含みます。参加施設数（13）

ー プログラム ー

13：00 受付開始

13：30 施設代表者会議（小会議室）

開式の挨拶 高松赤十字病院 篠岡 光

【司会】山口赤十字病院 土井 博志 理事

14：15 代表者会議終了

14：30 研修会開会挨拶 【司会】高松赤十字病院 西村 悟郎

14：35～ 会長講演

【座長】高松赤十字病院 篠岡 光

「日本赤十字社の動向と新しく各施設で検討する勘どころ」

演者：日本赤十字社診療放射線技師会 会長 荒井 一正 先生

※会長講演では赤十字病院全体の傾向として少子高齢化に伴い非常に厳しい経営状況について説明され、経営方針の見直しだけでなく DX 推進、高額医療機器の共同入札については、積極的な参加の必要性が強調された。また勘所としても、多くの会員にとって赤十字を取り巻く環境を熟知し、将来を見据えた経営に関する知識が今後必要となることが示唆された有意義な講演であった。

15：15 休憩

15：25～ 特別講演

【座長】高松赤十字病院 篠岡 光

「放射線による健康影響と遺伝的影響 ー福島原発事故を振り返ってー」

演者：東京医療保健大学 東が丘看護学部 看護学科

大学院 看護学研究科 教授 小野 孝二 先生

※福島原発事故以降、長引く風評被害などもある中で、実際の根拠に基づく放射線の恐れ方（正確な理解の上にたった）が重要であることが述べられた。この中で被爆者団体などは放射線被ばくの影響を過大評価する傾向があるが、一方では風評被害に苦しむ農業、漁業者らの苦しみがあり、その

ジレンマの中で放射線業務の専門家である我々放射線技師にとっても患者への被ばく説明のあり方などについても十分配慮する必要がある。それらの事が様々な多くの資料を用いて非常に明快に説明していただけたと思う。幅広い経験と知識に基づいている小野先生らしい有意義な御講演であった。

16：40 施設見学（希望者のみ）

※大きく三班に分かれ、地上一階と地下一階に分散配置されているモダリティの見学が行われた。特に北タワー地下の最新の放射線治療装置と半導体検出器搭載型 PET/CT 装置の画像コントラストの高さに注目が集まっていたようである。

18：30 情報交換会 参加人数 45名

※活け魚料理の店であり美味ではあったが、外部からの菓子・酒類の持ち込みが禁止されていたことが、やや残念ではあったものの、久しぶりの直接的な交流会という事でもあり、ひざ詰めで様々な話題に花が咲いた。

第13回 日本赤十字社診療放射線技師会 中国四国ブロック研修会

<2日目>

日時：令和7年2月16日（日）

9：00 日本赤十字社診療放射線技師会ホームページの紹介

日本赤十字社診療放射線技師会 副会長 松江赤十字病院 加藤 秀之

※新たに立ち上がった日本赤十字診療放射線技師会の新 SNS についての説明や機能について多くの画面イメージを用いて加藤副会長から説明があった。まだまだ会員の登録者数が少ないようなのでより一層の会員登録の呼びかけと豊富な機能の説明が今後ともに重要となる。

9：30 会員研究発表 テーマ「技師教育」

【座長】高松赤十字病院 吉崎 康則

事前アンケート報告 高松赤十字病院 岡川 貢 会員

① 技師教育のススメ～技師歴4年目の視点から～

松江赤十字病院 永岡 拓朗 会員

② 新人教育における専任制度の導入と取り組み

広島赤十字・原爆病院 富中 宗久 会員

③ 当院のキャリアラダーについて

山口赤十字病院 渡邊 美由紀 会員

④ 当院における新人教育～夜勤・日直に入るまで～

高松赤十字病院 井原 智也 会員

※まず初めに会員に向けて行ったアンケートについての結果発表があった。それぞれの病院ごとに育成システムの違いや、昇進についての基準が異なる点があり、他の施設にとって非常に参考になったと思われる。

施設毎の演題について

- ① の演題では新人4年目の立場からの目線で先輩方に意識してほしい事、さらに新人らは多くの事を先輩方から教わってスキルを身に着けるため、新人の立場からの先輩方へのアプローチや付き合い方などが紹介された。
- ② の演題では新人技師1名に専任の担当者が2名付くやりかたで育成がなされ、その中でも教育計画書の作成や更新の重要性が示された。
- ③ の演題で当施設はキャリアラダーシステムを導入しているがキャリアアップ指標も作成しており、今後この手法を導入する施設には非常に参考になるものと思われた。まだ育成の方法を模索している他の赤十字施設にとっての模範となるものと思われる。
- ④ の演題では最近看護部門で取り上げられることが多いプリセプターについての導入後1年が経過しての報告が行われた。

いずれの施設も技師教育のありかたについて様々に苦心をされている様子が伺われ、今後の経過を見たい。

10:30 休憩

10:40 メーカー教育講演

【座長】高松赤十字病院 西村 悟郎

「広範囲/高速/高分解能を実現する新生 ADCT」

演者：キャノンメディカルシステムズ株式会社

中四国支社営業推進部 CT 担当 六串 俊輔 先生

「新たなハードウェアとディープラーニング技術によって実現した高速 & 高精細 3 テスラ MRI」

演者：キャノンメディカルシステムズ株式会社

中四国支社営業推進部 MRI 担当 土屋 清仁 先生

※CT・MRI の最新機器の説明であるが AI 技術に関連した「クリアモーション」、「RDC DWI」、「IMC」などの Deep Learning を応用した画質を向上させる技術について紹介された。会場から「画質向上に伴う画像保存容量の増加への対応方法について」の質問がなされ、メーカー側からはデータを圧縮するためのいくつかの方法が提案された。

「富士フイルムの AI 開発の取り組み」

演者：富士フイルムメディカル株式会社

営業本部四国支社 IT ソリューションセンター 佐藤 亮介 先生

※富士フイルムの AI を用いた最新技術である「RE i LI」についての紹介があった。今後この技術も向かう方向として診断支援だけでなく、具体的な所見付の文章を的確に提案する方法にも力を注いでいる様であった。

11：40 北海道・中国四国ブロック合同研修会の案内

中国四国ブロック理事 山口赤十字病院 土井 博志会員

※WEB形式での開催ではあるが施設毎の一括した参集方式が採用されているので当日飛び入り参加も可能であり、なるべく多くのメンバの参加が各施設に向けて呼びかけられた。今回、合同研修会として初回開催となるので、今回このイベントの成功の可否が次回への開催への弾みになるものと思われる。

11：45 次期開催施設

鳥取赤十字病院 施設代表者 挨拶

※鳥取赤十字代表者から次年度開催に向けた挨拶があった。同時に中国・四国ブロック所有の物品類一式とブロックが高松から鳥取に引き継がれた。

11：50 閉会挨拶

<最後に>

中国・四国各地から参加された施設の方々だけでなく、前日夕方から、当日早朝、引き続き2日目の片付けを手伝っていただいた、当院スタッフの方々にも感謝の意を表したい。

報告者 高松赤十字病院 篠岡 光